

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 22 日現在

機関番号：43502

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2013～2014

課題番号：25883002

研究課題名(和文) 冷戦人道主義：難民救済ロジックとシステムの形成と発展

研究課題名(英文) Cold War Humanitarianism: The Formation and Development of the Logic of Rescuing Refugees

研究代表者

佐原 彩子 (Sahara, Ayako)

大月短期大学・経済科・助教

研究者番号：70708528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：インドシナ難民問題における合衆国主導の人道主義を「冷戦人道主義」として、冷戦下における人道主義の特徴を考察した。結論として、合衆国政府が消極的であった難民受け入れが人道主義の名のもとに行われたのは、国務省職員たちの尽力によるものであり、こうした一部の人々の関心が政策的な大きな流れを生んだことがわかった。International Rescue Committeeのような援助団体が大きな役割を果たし、政策を推進するために救済の道義性が強調される必要があったのは、世論は難民受け入れに反対していたからであった。そのため、合衆国政府と国際機関との連携による難民受け入れのグローバル化が必要であった。

研究成果の概要(英文)：The U.S. promoted humanitarianism through the Indochinese refugee problem after the Vietnam War. In this project, I analyzed this humanitarianism as the U.S. Cold War ideology to show characteristics of the U.S. policy on Asia. All in all, the refugee admission continued under the name of the humanitarianism was because of the result of the efforts by the staff of the Department of State. Aid groups such as International Rescue Committee played a significant role. To pursue the admission of the refugees, it was crucial to emphasize the obligation of the rescue. Therefore, the cooperation of the international organizations and the U.S. government was needed to globalize the refugee admission. The distinctive traits of the Cold War humanitarianism lie in the fact that the Cold War liberalism facilitated the emergence of the neoconservative which led to the establishment of the Reagan Administration.

研究分野：アメリカ研究

キーワード：アメリカ研究 地域研究 冷戦文化

1. 研究開始当初の背景

難民危機のグローバル化は、冷戦コンフリクトのグローバル化でもあると言われており (Hanhimaki 2008)。加えて、UNHCR が合衆国によって政治的・経済的に支えられていたことを考慮する (Loescher et al. 2001) と、「インドシナ難民問題」は、合衆国によってグローバル化されたとも考えられる。しかしながら、インドシナ難民問題のグローバル化を冷戦史に位置付けて考える重要性は提言された段階であり、いまだ十分にそれに応える研究が生み出されてきたとは言いがたい。また、冷戦下において、難民救済が重要な意味を持ったことが、人道主義や人権政治とどのように接合するののかについても十分議論されてきたとは言えない。近年、アメリカ合衆国 (以下合衆国) の外交と人道主義が合衆国の覇権を維持してきたという指摘があり (Costas 2007)、合衆国の外交と人道主義との関わりが批判的に研究される必要性が認識されてきた。加えて、「批判的難民研究」と呼ばれる研究を推進する研究者たちは、難民救済が人道主義的政治・軍事介入を正当化し、植民地的支配を存続させてきたと指摘する。この視点に立てば、難民は共産主義国家の欠陥を世界に露呈する証言者と考えられ、合衆国政府によるインドシナ難民政策についても、冷戦下における反共主義政策の一環という新たな意味付けが可能となる。なかでも、イェン・リ・エスピルトゥは、難民を地域紛争や低開発経済の自然な副産物と見るのではなく、難民発生を「グローバルな歴史・経済・文化的コンテクスト」において分析することで、難民発生そのものを可能としたアジアにおける合衆国のパワーのあり方を考察する必要性を主張する (Espiritu 2006)。本研究は、この呼びかけに応えるものである。

2. 研究の目的

本研究は、(批判的) 難民研究、人道主義研究、アメリカ史研究のフィールドをつなぐことによって、合衆国主導の人道主義がグローバル化した過程として「インドシナ難民問題」を分析することを目的としている。難民の世紀と言われた 20 世紀を通して、「インドシナ難民問題」は、重荷分担の代表例として考えられてきた (Suhrke 1998)。1975 年から 80 年の間に、国連高等難民弁務官事務所 (UNHCR) の予算の大部分が、インドシナ難民への援助に当てられ、日本も国際社会の一員としてその援助に参加し、インドシナ難民問題は世界的な救済レジームを生み出した。救済レジームに関しては多くの先行研究が存在するが、この難民問題解決のグローバル化を可能とした人道主義そのものがいかに生み出されてきたのかについては、救済を普遍的なものとし、十分に分析されてきたとは言えない。しかしながら、近年、人道主義そのものの文化・政治的意味を問い直す研究

がされており、たとえば、マイケル・バーネットによって、今までは、理想主義に立脚するか陰謀史観に立脚するかという二つのイデオロギーに引き裂かれてきた人道主義の歴史が問い直されている (Burnett 2011)。本研究は、このように人道主義を歴史的に位置づける視座から、インドシナ難民問題における合衆国主導の人道主義を「冷戦人道主義」として考察することをその大きな目的とする。

3. 研究の方法

サイゴン・カウボーイズと呼ばれた国務省関係者を中心とする難民「救済」に尽力した人々が、いかに難民を援助するロジックとシステムを形成したのかについて調べた。具体的には、2014 年および 2015 年において、ボストン大学およびハーヴァード大学などで史料調査を行った。こうした調査において、援助・救済システム構築が、ベトナム戦争中の慈善活動とどう接続するののかについて考察するため、International Rescue Committee を中心に調査し、トランスナショナルな「救済」ロジックとシステムが、ベトナム戦争中から、いかに作られ発展したのかを明らかにするため、さまざまな文書を批判的に読解した。また、そこに公民権運動家の活動やベトナム反戦運動がどのように接続するのかを調査した。

4. 研究成果

冷戦政策として 1970 年代に人道主義が出現した背景として、40 年代からの冷戦政策の影響が大きかったことが International Rescue Committee の活動からわかった。ベトナム・ロビーと言われた American Friends of Vietnam が IRC メンバーで構成されていたことなど、ベトナム介入とベトナム難民救済、ひいてはインドシナ難民救済は分けることのできないものであることがわかった。ベトナム戦争支持派は、反戦運動の高まりの中でも存続し、ベトナム戦争後の難民救済を経て、活動の正当性を担保することができたのである。また、難民受け入れが、合衆国政府の福祉削減を加速させ、福祉国家からの転換にも大きな役割を果たしたことを明らかにした。研究成果は、雑誌論文として掲載、および学会研究会等で発表された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

佐原彩子「冷戦政策としての人道主義 70 年代後半からのアメリカのインドシナ難民救済活動」『アメリカ太平洋研究』vol. 14、東京大学グローバル研

究機構アメリカ太平洋地域研究センター、2014年4月

佐原彩子「自立を強いられる難民 1980年難民法成立過程に見る『経済的自立』の意味」『アメリカ史研究』vol.37、日本アメリカ史学会、2014年8月

〔学会発表〕(計 6件)

佐原彩子「『サイゴン・カウボーイズ』によるインドシナ難民救済：道義的責任の継続とその意味の変容」第27回アメリカ史学会例会「救済の暴力：冷戦期アメリカにおける(不法)移民・難民の事例から」2013年7月20日、於東京大学(駒場キャンパス)

佐原彩子「『再会の地』アメリカ：ベトナム難民の再会をめぐる語りとその政治的意味」第38回アメリカ史学会年次大会シンポジウムA「『移民の国』アメリカ合衆国における非自発的移動」2013年9月21日、於立命館大学

佐原彩子「冷戦政策としての人道主義：70年代後半からのアメリカのインドシナ難民救済活動」シンポジウム「それぞれの戦後—アメリカとベトナム」2013年11月9日、於東京大学(駒場キャンパス)

Ayako Sahara and Long Bui, “Unwitting Alliances: Artistic Collaborations between South Vietnam and Japan during the Second Indochinese War,” The States of Southeast Asian American Studies, University of Minnesota, October 2, 2014

Ayako Sahara, “Operation Brotherhood,” Love after War: Asian Kinship and Affect in the Shadow of American Empire, Annual Conference of American Studies Association, Los Angeles, November 6, 2014

佐原彩子「ベトナム・ロビーの人道主義：合

衆国の対アジア政策と慈善活動の境界」ワークショップ「環太平洋をつなぐエージェンシー 人、物、知の循環」、科学研究費補助金・基盤研究A(代表：蘭信三)「20世紀東アジアをめぐる人の移動と社会統合」2014年12月20日、於上智大学

佐原彩子「合衆国難民政策の人道主義と新自由主義的世界秩序：インドシナ難民受け入れを事例に」歴史学研究会総会「環境から問う帝国/帝国主義」、2015年5月24日、慶應義塾大学三田キャンパス

佐原彩子「米越関係の狭間で紡がれる物語：VAOHPの取り組みから考察するベトナム系アメリカ人コミュニティ」日本アメリカ学会年次大会、部会D「ベトナム戦争終結40年」、2015年6月7日、国際基督教大学

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

佐原彩子（代表）

研究者番号：70708528

(2)研究分担者
()

研究者番号：

(3)連携研究者
()

研究者番号：